

# グローバル化と多言語主義

2001年にマルコム・ウォーターズが予言したようなグローバル社会では、唯一の言語が我々の言語コミュニケーションを支配し、多言語活動には勝ち目はないように見えるだろう。その唯一の言語とは、もちろん、英語である。「共通語としての英語」、「国際語としての英語」、「世界言語としての英語」などといったキャッチフレーズのもとに英語に関する文献が大量生産されている状況は、当初はグローバルな英語においてネイティブスピーカーの優位性を低減する試みであったが、しかしながら今では、この傾向を強化し固定化しつつある。

このままでは英語が共通語の主流となり、我々自身の言語は無視されないまでも、地方通貨のように周辺に押しやられて、ごく限定的にしか使われなくなるのではないだろうか？我々が英語教育の費用を出し、しかも我々自身の文化を犠牲にして、言葉の共同体という観念を実用の共同体という観念で置き換えてしまうのだろうか？

これは多言語主義の死なのだろうか、それともこれは単なる憶測にすぎないのだろうか？

2012年11月29日(木)

18:15-19:30 講演会

19:40-20:40 懇親会

人環棟 105 室

※講演は英語で行われます

講師：ベル・アッベス・ネダール博士

アルジェリア モスタガネム大学上級講師

本学客員准教授



ベル・アッベス・ネダール博士はアルジェリアのモスタガネム大学の応用言語学の準教授です。先生は中間言語語用論 (Interlanguage pragmatics) について主に研究されています。特に、第二言語および外国語において、語用論の知識と、それを生産的に運用する能力の学習過程について関心を置かれています。さらに文化間コミュニケーション、言説分析、共通言語としての英語といった研究にも関心を持たれています。



人間・環境学研究科の客員教授によるセミナーです。  
専門の異なる院生・教員の皆さんも奮ってご参加ください。  
懇親会のみ参加も歓迎します。

主催：人環国際交流委員会  
問合せ：国際交流委員・留学生アドバイザー  
藤田 (fujita.itoko.7c@kyoto-u.ac.jp)